

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472300575		
法人名	有限会社 海成水産		
事業所名	グループホーム館		
所在地	大分県大分市大字入蔵1095の4番地		
自己評価作成日	平成25年1月11日	評価結果市町村受理日	平成25年4月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true&PrefCd=44
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壱番館1F		
訪問調査日	平成25年2月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>山間の田畑に囲まれた静かな環境で、四季の移ろいを感じながらのんびりと過ごしていただける。心も身体も健康に過ごすには「食」が大切という考えから、施設内の畑で無農薬野菜を作り、米も施設長所有の田んぼで作った物を提供している。また、施設周辺で採れた山菜を使って季節感のある食事を提供している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>山村の民家を改造したホームであり、天然木、土壁、昔の道具等、古き良き時代の名残がふんだんに残っています。玄関を一步出れば自然を満喫し、散歩を中心とした外出支援は、利用者にとって大きな心身のリフレッシュとなっています。また、理念にもあるように「笑顔、目配り、気配り、心配り、感謝の気持ち、地域交流」をモットーに利用者とも向き合い、優しい対応と暖かい眼差しで支援を行い、人と人の触れ合いを大切にしています。管理者、職員は近隣住民との情報交換や地域行事にも積極的に協力し、地域との交流に努力されています。今後は、地域における認知症啓発、相談やアドバイス等で地域貢献をされることを期待します。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や居間に理念を掲示している。毎朝申し送りの後に職員全員で理念を唱えて、共有、実践に努めている。	地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所の理念を作り、管理者と職員は毎朝、唱和する事により理念の共有を確認すると共に、日々のケアを通して得られた気付きを実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者、半数の職員が地域住民であるため、日常的な交流がある。また、地域のボランティア団体に来ていただき、交流している。	地域の行事には、利用者の身体状況の低下により参加が困難になっています。行事には職員の手伝い等積極的な協力もみられ、日々の生活の中でも近隣の方から野菜を頂き、地域のボランティアの来訪もあり、地域交流が行われています。	広報誌の配布や地区の会合を通して、今まで事業所が積み重ねて来た認知症ケアの専門性、実践力を活かし、地域住民からの相談にのったり、介護の不安や負担軽減に繋がるアドバイス等情報提供することにより地域に貢献することを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	機会がない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を行い、行政や地域の方へ状況等報告し、質問や意見をいただいてサービスの向上に努めている。	運営推進会議は2ヶ月毎に開催されており、行政、地域、施設のメンバーの参加があり、事業所の状況や活動報告を行い、関係者より意見や情報を頂きサービス向上に具体的に活かすよう努めています。	利用者、家族の参加は難しい状況ではありますが、一人でも参加して頂けるよう、運営推進会議の持つ意味合いの更なる周知と様々な情報発信への取り組みに期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に来ていただいた時に相談し、アドバイスをいただいている。その他に困った事があれば電話で相談している。	運営推進会議での報告時に、市職員から多くの助言を頂いています。地域包括支援センター職員とも連携を図り、行政との協力や、信頼関係が築けるよう積極的に働きかけています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年1回身体拘束排除の勉強会を行っている。やむを得ず身体拘束を行っている方がいるので、身体拘束検討委員会で毎月検討している。	全職員は身体拘束排除の理解をしており、マニュアルを基に勉強会も行っています。現在、医師、家族同意の下、例外で身体拘束を行っている方がいますが、利用者の人権を守ることがケアの基本と認識し、常に記録を残し、見直しを検討しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年1回高齢者虐待防止関連法について勉強会を行い、虐待しない、見過ごさないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族にお任せしているので話し合いや支援はしていない。 学ぶ機会も持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は十分行っている。理解、納得された上で署名、捺印していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見、要望は日々接しながら把握に努めている。家族等の意見、要望は年1回のアンケート調査や面会時のコミュニケーションで把握に努めている。ご意見承り箱も設置している。	利用者、家族等の意見、要望はアンケートの実施や面会時の面談、意見箱の設置等によって確認しています。家族より出された意見、要望は可能なものは即応し、他は話し合いで手順を決め、運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案があれば、申し送りやカンファレンス時に話し合い、業務改善やサービスの質の向上に努めている。	会議や日々の申し送り時など、管理者と職員は自分達の意見を言い合える関係にあり、十分なコミュニケーションが図られています。年1回の自己評価及びアンケートを取り、職員の思いを把握する中で、気づき、アイデアをサービスに反映させ、ケアの充実に繋げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得のための援助や資格取得の対する給与アップ、個々の状況に合わせた労働時間の調整、各自の希望に合わせたシフト作成等、就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は2か月毎に行っている。法人外研修は一人ひとりのレベルに応じて受けるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加する事で同業者と交流している。近隣のグループホームとの相互訪問は現在していない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前から本人と面会し、コミュニケーションを取って状態の把握や良い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前から家族等と連絡を取ったり、面会して話し合う事で良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族等、関係機関と話し合い、当施設が適切な施設なのか等も含めて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事、得意な事を把握し、できる方には協力していただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の状況に応じて食事介助をして戴いたり、自室で一緒に過ごしたりしていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の面会は快く受け入れている。馴染みの場所を訪問する事はしていない。	入居時に馴染みの人や場所等を把握し、関係性を大切に考える中で、利用者の身体状況の低下と共に馴染みの場所等の外出の希望や実現が難しくなっています。	馴染みの場所や自宅周辺への外出は、家族に協力を依頼する等、実現に向ける事で今までの生活習慣への継続支援を期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や性格等を考慮して居間の席を決めたり、誘導したりしている。日中は自室にこもらず、居間で皆で過ごす時間が多い。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移られた方の家族からの相談は今も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の思いや希望を伝えられない方がほとんどなため、日々の様子や性格、家族等の情報から把握し、本人の気持ちを考慮した上で検討している。	日々のケアの中で、一人ひとりの思いや意向の把握に努めています。また、把握が困難な場合は、日頃の行動や表情から汲み取り、選択してもらう事で意向を把握しており、本人の視点に立って検討をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス導入時に情報収集しているが、分らない事が出来れば、家族等に聴き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子や気付いた事は記録したり申し送る事で職員全員が現状を把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族等の意向を聴き、受持ち職員を中心に話し合い、介護計画を作成している。モニタリングも介護職員と共に行っている。	利用者、家族の意向を踏まえ、職員の意見を参考にしながら、丁寧に介護計画が作成されています。見直しは6ヶ月を基本としていますが、体調等に変化があった場合は適宜、現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践は記録しているが、結果や気づき、工夫は口頭での申し送りのみになっている事が多い。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看取りはしない方針であったが、家族の強い要望があった為、かかりつけ医と十分話し合い、家族と共に看取りをした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りでは毎年おみこしに来ていただいている。また、地域のボランティアグループに来ていただき、皆で歌を歌ったり、体操をしたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族等と相談してかかりつけ医を決めている。また、状態に応じてかかりつけ医以外の専門医を受診している。	利用者・家族の馴染みの医療機関への定期的な受診や往診が行なわれています。診療時の検診結果の報告を通して、家族との共有と相互の協力的な関係作りに努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化や気づきがあれば職場内の看護職に伝えたり、かかりつけ医に連絡して適切な対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は面会に行き、衣類を持ち帰って洗濯したり、病院関係者との情報交換をしている。かかりつけ医のスタッフとは相談できる良い関係である。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りはしない方針であったが、家族の強い要望があった為、かかりつけ医と十分話し合ったうえで一人の利用者の看取りを行った。	重度化における終末期の取り組みについて、入所時に説明が行われています。また、看取りの経緯を通して、今後の終末期の支援について、全職員で前進的に慎重に協議中です。	「今を大切に生きることへの支援とその延長である看取り」について、現在の施設状況と可能な支援体制（医療機関との連携等）、職員相互のチームワークへの意思確認など、全職員間の周知に期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルはあるが、救急講習はH22年12月以降行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。夜間を想定した避難訓練も行っている。災害時には地域の方から協力していただける体制を築いている。	夜間想定避難訓練の実施を通して、個々の職員の避難技術の向上に取り組んでいます。近隣住民への協力依頼名簿が作成されるなど、安心・安全な生活への支援に取り組んでいます。	夜間避難訓練の実践、もしくは、体験談の収集等を通して、安全な避難への取り組みに向けた、支援体制の向上に努める取り組みを希望します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	運営方針の「利用者様は私達の家族」という精神の下に一人ひとりを尊重し、プライバシーの確保に努めている。	利用者の尊厳への取り組みとして、職員相互のチームワーク「お互いに支えあう職員関係」を基盤に、一人ひとりの利用者の日常の暮らしのケアに努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重した支援を心掛けています。思いの表出や自己決定ができない方はその時の様子や体調等に応じてその人の性格等も考慮した上で支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事の日程や定期受診、食事時間等は大きめに決まっているが、基本的に一人ひとりのペースや希望、体調等に応じて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類を購入したり、準備する際はその人に似合う物を選んでいく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の重度化により食事の準備や片付けを一緒に行う事ができないが、季節感のある料理を提供し、楽しんでいただけるよう努めている。	心身の機能低下により、食事介助を通して、食べ易さの把握・工夫に努めています。地産地消への取り組みにより、季節感を盛り込んだ食材、食の趣を味わう楽しみへの配慮が図られています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的な体重測定、血液検査で栄養状態等のチェックをしている。一人ひとりの状態に応じてきざみ食、トロミ食等提供したり、支援をしている。1日1100mlの水分補給をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合った口腔ケアをしている。十分にできない方もまず、自分でしていただき、最後に職員が仕上げをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、一人ひとりに合った排泄支援をしている。声かけやトイレ誘導をして、なるべくトイレで排泄できるようにしている。	排泄パターンの把握(排泄チェック表)やサインの気付きを大切に、個々の利用者に応じた声かけに留意する中で、負担を与えない介護(誘導等)・環境改善に全職員で取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃より野菜を多く取り入れた食事を提供し、毎日牛乳も飲んでいただいている。便意がなく、オムツを使用している方も毎朝トイレに座っていただき、自然排便を促している。毎日体操もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	木曜日以外の午後に入浴支援をしている。希望される方がいないので職員が体調等を考慮した上で決めている。	心身状況の配慮、機械浴や職員二人体制の介護等、安全面に留意しながら、個々の思いに応じた支援が行なわれています。入浴剤の使用など、安らぎの雰囲気づくりにも取り組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できる限り日中の活動を行う事で安眠を促している。一人ひとりの体調や気分に応じて昼食後等に自室で休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録と一緒に薬の説明用紙を綴じているため、いつでも薬効等の確認ができる。症状の変化があれば、看護職員やかかりつけ医に報告、相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意な事、好みを把握し、役割を持っていただいたり、気分転換等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出を希望される方はいないが、気候の良い時は庭でお茶を飲んだり、歌を歌って過ごしたり、散歩したりしている。季節毎にお花見等にも出かけている。	個々の利用者の思いを汲み取りながら、体調の変化への配慮を大切に気分転換(ドライブ等)と健康増進(日光浴・外気浴)に向けた支援に取り組む様子が伺えます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方は一人いるが、最近はお金を所持しなくなった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りができる方はいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温湿度計を用いて温度、湿度の把握、調節をして、換気にも努めている。いつも季節を感じられるように花を活けたり、飾り付けをしている。	居間の壁面には、利用者の暮らしぶりや行事の写真が飾られ、和やかな感覚を大切に生活を愛しむ配慮が伺えます。個々の利用者の安全と暮らし易い環境整備の実践に努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の席は利用者の相性を考慮して決めている。ソファや畳でゆっくり過ごす事もできる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に使い慣れた物を持ち込まれる方はほとんどいない。花を飾ったり写真や本人が作った作品を貼って、心地良い空間作りに努めている。	安全と安らぎの提案への取り組みに向けて、職員のアイデアが活かされており、個々の利用者が心地よく安心して過ごせる居室づくりに取り組む、職員間のチームワークが感じられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示や手すりの設置、立ち上がり困難な方の椅子を立ち上がりやすい高さにする等の工夫をしている。		